

市民フォーラム21 第4回 環境部会 次第

日時；平成22年11月26日(金)午前9時30分～
場所；第1庁舎8階 第1委員会室

- 1 開 会
- 2 市民フォーラム21 第3回 環境部会 会議概要について
- 3 ワークショップのまとめについて 【資料1】
- 4 本日の日程等について 【資料2】
- 5 ワークショップ
 テーマ：政策2 - 1 豊かな自然環境の保全と創造
- 6 その他
 (1) 今後の予定について
- 7 閉 会

<資料>

資料1；ワークショップまとめ(案)

 テーマ：政策2 - 2 資源が循環する環境共生都市の実現

資料2；市民フォーラム21 環境部会 ワークショップ開催日程及び参加者

次回の予定

日 時：平成22年12月27日(月) 9:30～11:30

会 場：市役所第2庁舎10階会議室18

持ち物：第四次長野市総合計画、第四次長野市総合計画 前期基本計画の現況と課題、これまでに配布した資料

市民フォーラム21 第3回環境部会 ワークショップまとめ(案)

資料1

日時	平成22年11月12日(金)午後3時	会場	長野市役所第1委員会室
政策	資源が循環する環境共生都市の実現		
2-2			

行	大項目 項目	分類
1	ごみ - ごみの出し方	W
2	ごみ袋が高い。規格基準が厳しい。	W
3	ごみの分別を徹底する。	W
4	ごみの分別が改善傾向にある。	W
5	家庭・事業所からのごみの分別は、おおむねできている。	W
6	事業所のごみをもっと減量させる方法を考える。	W
7	ごみ - 収集	W
8	ごみ収集所(プレハブ)にごみを出す時間をもっと便利にしてほしい。	W
9	ごみ収集の時間を変更する。	W
10	ごみ収集の機会を10%減らす。	W
11	市民によりごみステーションがきれいに利用(管理)されている。	W
12	ごみ - リサイクル	W
13	可燃ごみの中に紙の混入が多い。企業の機密文書のリサイクル化を推進する。	W
14	建設工事等から排出された廃棄物が分別され、一部は再利用されている。	W
15	定期的なリサイクルバザー、ガレージセールを拡大する。	W
16	資源物として回収できる品目を増やす。(容器包装以外のプラなど)	W
17	ごみの分別収集はまだ細かくできる。リサイクル100%を目指す。(北九州市、富山市)	W
18	家電リサイクル法の対象とならない家電は不燃ごみとして処理されている。	W
19	プラスチックごみの中に、汚れているものやプラスチック以外のものが混入している。	W
20	リサイクル意識が進んできている。	W
21	廃タイヤの再利用を促進する。(無料回収)	W
22	しくみ・成果	W
23	資源回収団体も増加し、回収量も増加している。	W
24	学校や地域で古紙の回収などの活動に取り組み、リサイクルについて考える機会がある。	W
25	資源ごみの回収を徹底する。	W
26	ごみの有料化により、市民に資源を大切にしている意識が高まっている。	W
27	家庭ごみ処理が有料化され、ごみが減っている。	W
28	家庭ごみの有料化後、ごみ量が減少し、一定の成果を得ている。	W
29	生ごみ	W
30	生ごみ処理場がない。	W
31	生ごみ分別ができると良い。	W
32	ダンボール堆肥など、小さな活動がある。(なかなか大きな輪になっていない)	W
33	もっと生ごみの自家処理を進めたい。	W
34	家庭での生ごみ処理が進んでいない。ノウハウが浸透してなく、啓発も進んでいない。	W
35	生ごみ自家処理器が普及しない。	W
36	中山間地域では、生ごみ処理のコンポストが野生動物を誘引する。	W
37	生ごみの飼料化・堆肥化を促進する。	W
38	生ごみの堆肥化・飼料化はあまり進んでいない。	W
39	プラごみが減った一方で、可燃ごみの処理に多量の重油が使われている。	W

分類の記号

W :ワークショップで検討された意見

K :審議会委員(他作業部会所属)の意見(今回なし)

要約(案)

作業部会意見まとめ(案)

ごみの分別はおおむねできているが、更に徹底する。

ごみ収集に関して市民の利便性を向上する。

リサイクル化を更に推進する。
リサイクルする品目を増やす。

資源回収の活動が広がっている。
家庭ごみ処理の有料化により、ごみが減少している。

生ごみ処理が進んでいない。
生ごみの堆肥化・飼料化はあまり進んでいない。

ごみの分別の徹底
ごみ収集の利便性の向上、資源化品目の増加によるリサイクル化の推進
資源回収活動の継続・拡大
家庭ごみ処理有料化制度の継続

生ごみ処理の普及啓発
生ごみの堆肥化・飼料化の促進

2-2 資源が循環する環境共生都市の実現

行	大項目 項目	分類
40	長野市では、焼却時に重油等は使用していない。	
41	生ごみ - 食育	W
42	給食センターの是非を考える。	W
43	給食センターの老朽化による建替えよりも空き教室を使用した給食室を推進する。	W
44	地産地消、スローフードを促進する。	W
45	生ごみ - 食育 - 食べ残し	W
46	学校給食での食べ残しが多いことが問題である。	W
47	食べ残しが多い。(学校給食など)	W
48	食品系残さのリサイクルがなかなか進まない。	W
49	生ごみで、食べ物の残が多い。	W
50	食べ残しを持ち帰る。	W
51	創・新エネルギー	W
52	新エネルギーへの理解がまだ進んでいない。	W
53	新エネルギーへの切り替えにコストがかかる。	W
54	新エネルギー導入に多額の経費が必要である。	W
55	新エネルギーの推進が進んでいない。	W
56	自然エネルギーの活用が進んでいない。	W
57	地下熱を有効に活用する。	W
58	石油代替エネルギーを推進する。	W
59	水車エネルギーをもっと活用したい。	W
60	太陽光 雨水 - <太陽光>	W
61	リフォームや借入ができない人が多く、事業所や家庭での太陽光発電システムの導入が進んでいない。	W
62	太陽光発電の個人住宅が増加している。	W
63	企業の太陽光発電システム設置に補助金を出す。	W
64	太陽光発電システムの設置に補助金を出す。	W
65	太陽熱利用温水器を広げる。	W
66	CO2の数値意識がない。数値化する仕組みが少ない。	W
67	太陽光設備による発電量が少ない。	W
68	産業用ソーラーは、価格が下がらず企業が取り組みにくい。	W
69	バイオマス	W
70	バイオマスの活用は早く進めてほしい。	W
71	バイオマスタウン構想は、今後どのような効果が出てくるのか分からない。	W
72	森のエネルギー	W
73	木質バイオマス資源の活用が始まった。	W
74	薪に関する情報を提供する。(薪あげます、薪もらいます)	W
75	薪ストーブの利用促進のために補助金を出す。	W
76	薪ストーブをもっと普及すべきである。	W
77	山林に埋もれている間伐材などが適正に処理されていない。	W
78	森林間伐材が放置されたままになっている。	W
79	林地残材排出に係る事業費が高く、搬出が進まない。	W
80	移動製材機を導入して民間に貸し出し、木材として利用、または燃料とする。	W
81	リサイクル品で擬木が増えるより、木そのものの資源循環を考える。	W
82	木の炭化とその活用を促進する。	W
83	剪定枝の分別回収は大変良いと思う。	W

要約(案)

作業部会意見まとめ(案)

食育における学校給食のあり方を考える。
学校給食などの食べ残しが多い。
食品系残さのリサイクルがなかなか進まない。

新エネルギーの導入 活用が進んでいない。

個人における太陽光発電システムの設置は増加しているが、更に進める。
企業における太陽光発電システムの設置が進んでない。
CO2の数値意識がない。

バイオマスの活用を推進する。
間伐材が有効活用されていない。
薪ストーブを普及する。

食育による食べ残しの減少
地域内での循環の推進

新エネルギーの導入 活用推進
新エネルギー普及のための課題研究

家庭用及び産業用太陽光発電システム設置の奨励
CO2の数値化による環境意識の醸成

バイオマス活用の推進
間伐材の有効利用など森のエネルギーの活用方法の検討

2-2 資源が循環する環境共生都市の実現

行	大項目 項目	分類	要約(案)	作業部会意見まとめ(案)
84	太陽光 雨水 - <雨水>	W	雨水の有効利用ができていない。 水を大切にしている意識が薄くなっている。	雨水利用や水を大切にしている意識の高揚による水循環の促進
85	水循環	W		
86	市街地での雨水利用(水循環)が進んでいない。	W		
87	雨水タンクを義務化する。	W		
88	雨水の有効利用ができていない。	W		
89	家庭用の雨水貯留施設を知らない。	W		
90	透水アスファルトを拡大する。	W		
91	水道も下水道も当たり前になって、水の大切さの意識が薄くなっている。	W		
92	土循環	W		
93	環境に負荷を与えない農業の取組が進められている。(土に分解されるマルチの普及など)	W		
94	家庭での落ち葉堆肥づくりを普及促進する。	W		
95	省エネルギー	W	24時間営業店舗の消費エネルギーが大きい。 CO2排出量を可視化し、省エネを図る。	消費エネルギーの適正化 CO2排出量の可視化による省エネの取組
96	24時間営業のお店で使用するエネルギーは本当に必要なのか疑問である。	W		
97	24時間営業は必要なのか疑問がある。	W		
98	24時間営業の店の照明が明るすぎる。	W		
99	適切に冷暖房温度の設定がされていない場合が多い。	W		
100	ごみ焼却施設の建設について、大きくつくりすぎないようにしてほしい。	W		
101	家庭でのCO2排出量を可視化し、省エネを図る。	W	マイバック持参率をもっと高める。 まだ使えるものは再利用する。 長期利用できる物品、詰め替え製品など、環境に配慮した消費行動に取り組む。 もったいない意識の高揚を図る。	マイバック持参率の向上 再利用を促進する仕組みづくり 環境に配慮した消費行動 もったいない意識の高揚
102	消費行動	W		
103	コンビニで買い物をするとプラスチックごみが多くでるように思う。	W		
104	マイバック持参率をもっと高めたい。	W		
105	スーパーではマイバック持参の人が多く見られる。	W		
106	コンビニではマイバック持参の人が少ない。	W		
107	マイバックを持参して買い物をする市民が増えている。	W		
108	レジ袋削減、エコバックの持参が普及していない。市民の意識が低く、また、メリットが少ない。	W		
109	詰め替え製品を利用する。	W		
110	安い商品が多すぎて、子ども服などのお古の買い手がいない。(衣類のリサイクルシステム)	W		
111	もったいない	W	ながのエコ・サークルの認知度が低い。 環境に関する専門的な研究がされていない。 環境への取組について、説明が不足している。	環境活動に取り組んだ企業への社会的評価 環境に関する専門的な研究 分かりやすい環境情報の提供 ごみ処理、リサイクルなど、ごみに関する理解の向上
112	意識向上	W		
113	もったいない意識の高揚を図る。	W		
114	市民意識が醸成されていない。	W		
115	まだ使える品物が捨てられ、処分されている。仕組みが悪い(できていない)。	W		
116	賞味期限を見直す。	W		
117	有害鳥獣の肉を有効利用する。	W		
118	リユースカップを使用する。	W		
119	長期利用できる住宅、家具を購入する。	W		
120	啓発	W		
121	店外に設置された店のごみ箱に家庭ごみを捨てるなど、モラルの問題がある。	W		
122	ながのエコ・サークルに認定されることがモチベーションの向上につながるようにしてほしい。	W		
123	ながのエコ・サークル制度があまり知られていないので、企業・市民に普及する。	W		
124	環境に関する研究(専門)機関が少ない。	W		
125	ごみ通信に期待している。	W		
126	分別収集の結果、どのようにリサイクルがされているのかよく分からない。	W		
127	環境への取組に係る費用と効果の検証が後回しになっている。	W		
128	地球温暖化防止に向けての正確な原理や分かりやすい説明が不足している。	W		

